

在宅療養ワークショップ

～地域包括ケアシステムと在宅療養～

尼崎小田高等学校の看護医療・健康類型の高校生
と「認知症のこと」「地域包括ケアシステムのこと」
「在宅療養のこと」をお話しませんか！



日時 令和8年3月1日(日) 9:30～12:00

実施場所 中央北生涯学習プラザ 3F 小ホール (尼崎市東難波町 2-14-1)

時 程	
9:00～	受付
9:30～9:40	開会行事
9:40～10:10	探究活動の報告 「情報通信技術 (ICT) を利用することでどのような条件があれば高齢者の孤独を和らげることができるのか」 「アニマルセラピー (動物介在活動) は、在宅療養者や高齢者の孤独をどのようにやわらげるのか」
10:10～10:30	医療・介護専門職からの講義のまとめ&講義を受けて、みなさんに伝えたいこと (動画鑑賞)
10:30～10:45	休憩
10:45～11:15	「もしバナゲーム」で「もしもの時に、自分はどうしたいのか、どうしてほしいのか」を考える (グループワーキング)
11:15～11:45	兵庫県立大学「支えあい・見守り事業」の地域報告
11:45～12:00	閉会行事

高齢者のうち、約6割の方が「人生の最期まで自宅で暮らし続けたい」と考えていると言われています。一方で、「本当に自宅で大丈夫なのだろうか」「介護や医療はどうなるのだろうか」と、漠然とした不安を抱えている方も少なくありません。そうした疑問や不安に向き合うために、本校「看護医療基礎」を選択する31名の生徒が、尼崎市医療・介護連携協議会の支援を受け、在宅療養や高齢期の暮らしを支える仕組みについて学んできました。本イベントでは、生徒による探究活動の報告として2つのテーマについて発表を行います。あわせて、医療・介護の専門職からの講義を通して、学びを整理し、皆さまにお伝えしたいポイントを共有します。後半は、「もしバナゲーム」を用いたワークショップを行い、「もしもの時に、自分はどうしたいのか」「周囲にどのように支えてほしいのか」について、参加者同士で考え、語り合う時間を設けます。病気や介護が必要になっても、最期まで自分らしく自宅で暮らすためには、どのような支えや選択肢があるのか。在宅療養を多職種が支える体制について知るとともに、これからの人生や最期の迎え方について、本校「看護医療・健康類型」の生徒と一緒に学び、考えてみませんか。皆さまのご参加を、心よりお待ちしております。